

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 19 日

【評価実施概要】			
事業所番号	3870201286		
法人名	社会福祉法人 日親会		
事業所名	グループホーム ラ・ファミーユ		
所在地	今治市菊間町浜1453番地1 (電話) 0898-54-5678		
管理者	安永 英和		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 1 月 15 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 23 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 27 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 18 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 27 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	11 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.2 歳	最低 61 歳	最高 92 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】
運営者の、近親者介護の経験からくる思いと、地域貢献のための一手段として高齢者施設を造りたいとの考えから開設されたホームである。ホームは洒落た洋館風の2階建てで、町や海の眺めが素晴らしい高台にある。建物の中は明るくゆったりとした造りで、利用者はそれぞれのペースで自由な生活を送っている。職員はホームの理念である「笑顔」の実践を心がけ、仲良く助け合って質の高いサービス提供に努めている。地域の自治会に加入し、地元の祭り等の行事に参加し、中学生の体験学習を受け入れ、ホームの夏祭りに地域の方を招く等、地域との交流に積極的に努めている。

【質向上への取組状況】
▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
前回の評価後、ホームは地域との更なる交流に努め、運営推進会議を2か月に1回の開催とし、市の担当者と一緒に連携を図り、職員の研修参加をより推進する等の改善に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
運営者、管理者は評価の意義を理解した上で、自己評価は主に管理者がまとめている。今後はより評価を有意義なものとするためにも、全職員で取り組むことが期待される。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
会議ではホームの活動状況、行事、課題への取り組み、外部評価等の報告を行い、参加者で話し合っている。会議で出された意見やアドバイス、地域の情報等をサービス向上に活かしている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
来訪時や運営推進会議の時などに家族の意見や希望等を聞き、ホームの運営に反映させている。相談苦情窓口は文書に明記し、家族にも説明している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
ホームは自治会に加入し、地域の文化祭や福祉フェアに参加し、祭りには神輿や御供馬がやってきて、利用者は地元の方との交流を楽しんでいる。また、中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの夏祭りに地元の方を招く等、積極的に地域との交流に努めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏 名 安永 英和

評価完了日 平成 20 年 12 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔」を理念に、職員と入居者間だけでなく、散歩時や通勤時など地域の人に会ったら進んで笑顔で挨拶するようにしている。		
			(外部評価) 「笑顔」という理念は分かりやすく、親しみやすさがある。この理念は、利用者が地域で安心して暮らし続ける上で基本となるものであると捉え、共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を実践する為に、入居者が地域に溶け込み安全で安心かつ尊厳のある生活を送れるようにミーティング等で話し合ったり、職員間でも声かけもしている。		
			(外部評価) 居間の見やすい所に理念を掲げ、管理者と職員はミーティングで話し合う等、理念を共有し合っている。職員は、利用者との会話等、日々のケアの中での理念の実践を心がけている。職員同士も「笑顔」で接するよう努め、地域の方とも「笑顔」での挨拶を実践している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念の「笑顔」を各階ホールで目につくよう時計の横に掲示し、家族へは都度説明している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 施設が高台にあるため、入居者の家族以外の来訪者は少ないが、職員は挨拶を心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に入会し、地域のイベントに積極的に参加したり、お祭りに地元の御神輿や御供馬に来てもらい入居者にも楽しんでもらってます。また中学生の職場体験を受け入れ交流に努めている。 (外部評価) ホームは自治会に加入し、地域の文化祭に利用者の作品を出品し、福祉フェアに参加し、祭りには神輿や御供馬がやってくるなど、利用者は地域の方との交流を楽しんでいる。また、中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの夏祭りに地元の方を招く等、地域との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合いは行っているが、実際には地域の暮らしに役立つことはまだ出来ていない。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・外部評価で問題があった点等は職員間で討議して改善に努めている。 (外部評価) 運営者、管理者は評価の意義を理解したうえで、主に管理者が自己評価をまとめている。前回の評価後、ホームは地域との更なる交流に努め、運営推進会議を2か月に1回開催することとし、市の担当者と一層の連携を図り、職員の研修への参加を推進する等の改善に取り組んでいる。	※	全職員が評価の意義を理解して自己評価に取り組むことで、日々のケアの振り返りとなり、サービスの質の向上にも繋がると思われるため、今後は全職員で評価に取り組んでいくことを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 活動や取り組み人事などの報告を行い、入居者・家族・ 地域・行政からの意見交換が出来る場となっている。意 見や要望はミーティングなどで話し合いサービス向上に 努めている。		
			(外部評価) 会議ではホームの活動状況、行事、課題への取り組み、 外部評価等について報告し、話し合いがもたれている。 会議で出された意見やアドバイス、地域の情報等をサー ビス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 市職員との他の部分での交流の機会はまだ設けていな い。		
			(外部評価) 市担当者に運営、金銭管理、リハビリテーション等につ いて相談したり、手続き関係で市の窓口を訪れる等、日 常的に担当者で行き来する機会がある。また、こうした 機会に介護・福祉関連の情報を得ている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて説明等を行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等で、高齢者の虐待の話し合いをし知識を 持って日常に虐待が発生していないか、管理者・職員互 いに注意し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人と家族に施設見学をしていただき契約書及び重要事項説明書を説明し、家族側の要望・不安・疑問などの思いを十分に話し合い理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族・友人等との面会や電話での外部との接触の機会を設けて、職員とは日常会話の中で察するよう努力している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 健康状態に問題があれば、すぐに家族へ連絡している。定期的な報告はしていないが家族が来訪した際に状況の説明等を行っている。金銭は、利用料請求時に月の小遣いの収支表を同封し送付している。職員の異動等も利用料請求時にお知らせ文を同封し送付している。 (外部評価) 家族の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝えている。また、月に1回、利用者のホームでの過ごし方、行事の様子等について、写真を添えて報告している。家族からの預かり金は個別に管理し、毎月収支表と領収書のコピーを送付して報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に管理者や職員へ意見・苦情等があれば伝えていただいている。施設玄関に意見箱を設置しており、ホーム玄関にも意見箱の設置を予定している。 (外部評価) 来訪時や運営推進会議の際等に家族の意見や希望等を聞き、ホームの運営に反映させている。相談苦情窓口として、ホーム内の窓口は文書に明記し、家族に説明しているが、外部の機関は明記されていない。	※	サービスの質の確保・向上のためには、家族等の率直な意見や苦情を活かす姿勢や体制が必要である。より家族が意見や苦情等を表出しやすくなるよう、外部の相談苦情窓口を文書に明記し、家族に説明することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ミーティングを行い、その場で提案出来る機会を設けている。提案のあった場合は検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ぎりぎりの職員人数でのシフトだが、昼間の時間帯に職員を多く確保して利用者の状況に応じて対応出来るようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 退職者がした場合やユニット間のバランスを考え、不定期に必要最小限での職員の異動をおこなっている。 (外部評価) 運営者は、職員の異動や離職を最小限に抑えるよう努力している。同系列の事業所合同での行事や職員の行き来が日常的であるため、法人間の職員異動時は利用者へのダメージも少ない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修など、希望者の勤務を調整して参加している。 (外部評価) 運営者は職員育成の大切さを認識して研修への参加を推進しているが、限られた職員体制の中での参加となるため、日帰りの研修参加が中心となっている。外部研修への参加者はミーティングで他の職員に研修内容を伝え、またミーティング時にミニ学習会を行うこともある。	※	サービスの質の向上のためにも職員の育成、学習は重要であり、職員の経験や資格等に応じた研修に順番に参加できるよう、職員の確保やシフトの工夫等に配慮していくことを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 特には行っていない。管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っている。 (外部評価) 周辺の同業者同士の交流はあまり活発でなく、ネットワークづくりや相互訪問等の活動も行われていない。	※	サービスの質の向上や職員の育成のためには同業者との交流・連携は有効であり、近くのホームを訪ね合う等身近な工夫での交流から取り組みをはじめることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の話を聞き、職員と共に検討し悩みが軽減出来るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の仕事の状況や考え方を把握して、アドバイス等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) まずはホームへ来ていただき、本人からの話をよく聴いてから説明し不安を解消していただいてから実際にホームの見学(触れ合い)をしていただいている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の不安・悩み・要望をよく聴いた上で、本人の生活状況・問題点等をよく聴くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に利用している他の事業所・医療機関などとの連携をとり対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に本人・家族に見学に来ていただき、十分に相談した上で入居の受け入れをしている。また家族と相談しながら、利用者が入居前に併設施設のデイサービスやケアハウス利用し集団生活や施設に馴染んでから入居する場合もある。 (外部評価) 利用者や家族に前もってホームを見学してもらうなどして、雰囲気に慣れた上で入居できるよう、馴染みの関係づくりを重視している。また、敷地内にある同系列のデイサービスやケアハウスを利用して、集団生活を経験した上で入居してもらう等の工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 料理や農作業等の指導を受けたり、外出時に花や虫などの名前を教えてもらったり、行事の作業とか利用者の得意分野を職員が頼りにしている。 (外部評価) 職員は、利用者と共に散歩、外食、行事の準備、歌を唄う、おやつづくり、芋掘り等を楽しみながら行っている。また、利用者から料理の下ごしらえ、洗濯物の干し方やたたみ方、畑づくり等を教わっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、利用者の日々の様子やエピソードなどを報告し、今後利用者を支えていく上で必要な情報を共有し家族との関係を築いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 色々と複雑な関係の家族もあるが、利用者に対する理解を持ってもらいより良い関係が築いていけるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) この件に関しては家族対応をお願いしているが、ドライブなどで思い出の場所へ行ったり通った時などに思い出話をしたりしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は、職員が把握しておりトラブルの発生を未然に防ぎ対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意思を尊重しつつ本人の状況を考慮し、出来る限りの対応をおこなっている。 (外部評価) 利用者との会話、素振り、声かけへの反応、家族からの情報等から、一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 独居生活をしていた入居者も数人いるが、家族に確認しても分からないケースもあるが出来る限り把握できるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居後1ヶ月程度は、利用者自身の生活パターンや癖等を把握する時間に当てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ここでの生活が、安全と安心が保障された本人主体の生活になるよう家族と職員の意見を取り入れ、利用者に適した方法で介護できるよう介護計画を作成している。 (外部評価) 月1回のミーティングで、利用者や家族の思いを反映しながら、職員同士が話し合って介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回、介護計画の評価と見直しを行い、身体低下など必要に応じて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。 (外部評価) 毎月ミーティングで計画をチェックし、必要時には見直している。利用者や家族の状況に変化が生じた場合は、その都度新たな計画を作成している。なお、3か月に1回は計画の評価を行い、見直すことにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の状況を介護記録に記載し、情報を共有して話し合いを行い、介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 事業所内で対応出来ることに関しては、必要に応じて柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者の急な受診や外泊、冠婚葬祭、家族の居室での宿泊等、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特には行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話をすることはあるが、利用者が他のサービスを利用するには至っていない為、必要に応じて検討して行く。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとの関わりは無い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回の医療機関による往診を行っている。基本的に病院に関しては、家族の希望に合わせている。家族が他の病院を希望する場合は、家族対応で行ってもらっている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は家族が付添うことにしているが、都合が悪い時は職員が付添っている。また、ホームの協力医療機関による週1回の往診も行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 精神科の医師と連携を図っており、必要に応じては家族に了承を得て通院を実施している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設施設内の看護師に日常的に相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、病院へ基本的な情報を提示し、入院先・家族・職員が早期退院、再入居が可能なよう連携している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 当施設では重度化した場合や終末期までのあり方についての対応は、指針を入居時に説明し同意を得ている。受け入れ先が見つかるまでは当施設で対応することになっている。 (外部評価) ホームの方針として重度化や終末期の支援は行っておらず、このことは早い時期から利用者や家族に説明している。重度化や終末期の段階になっても、適切な転居先が見つかるまではホームで対応することになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 検討中である。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 必要な状況に応じて情報交換を行いダメージを防ぐことに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員皆十分に注意を払っている。ミーティング時にも利用者に対する言葉かけ・言葉づかいや対応について話しあっている。 (外部評価) 食事時に偏った食べ方になっている場合には食器の位置を変えてさりげなく介助したり、食後の歯磨きを小声で促したり、排泄時などに恥ずかしい思いをしないよう耳元で尋ねる等、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮している。記録類は個人情報保護に留意し、事務室のロッカーで保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の理解力に応じた説明をし、会話するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員数の関係で、全てが利用者の希望通りにはいかないが、出来る限り希望にそった日々の暮らしが出来るよう努めている。 (外部評価) 利用者の希望で、近くの神社へ行ったり、公園まで散歩したり、お目当ての買い物ができるスーパーへ車で出かける等、一人ひとりの思いやペースを大切にした対応をしている。たばこを吸いたい利用者には、外で職員と共に喫煙してもらい、晩酌をしたい方には、できるだけ希望が叶うよう対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容に関しては、家族対応としている。利用者によっては出張の美容院を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者で出来ることに関しては、手伝ってもらったり職員と一緒にしてもらっている。 (外部評価) 自力でゆっくり食べる利用者をせかすことなく見守り、ご飯だけ食べる方には、おかずの皿を食べやすい位置にさりげなく移動する等の支援をしている。利用者と職員は一緒に料理の下ごしらえをしたり、食卓を拭いたり、後片付けを行っている。時には外部からお弁当をとるなどして、趣向を変えた食事を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲酒は、希望者がいません。飲み物やおやつは食事制限者だと難しいが、希望があれば一定の範囲ではあるが聞くようにしている。たばこは、ホームが禁煙の為禁止である。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 各利用者の排泄パターンを職員間で話し合って、できるだけ把握して対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 職員数の関係で、利用者の希望通りにはいかない。入浴の曜日は決まっているが、順番についてはその都度配慮して決めている。利用者の体調不良によって入浴出来ない場合は、清拭などで対応している。 (外部評価) 入浴の曜日は決まっているが、入浴時間やその他の希望にも柔軟に対応できるよう努めている。利用者の体調等により入浴が難しい場合は清拭等で対応し、清潔保持に配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 各利用者で入眠時間が違うので、眠くなるまでフロア一等等で過ごしていただいている。休息は、職員が昼夜逆転にならないように配慮しながら休息してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 限りはありますが、したい事が出来るように支援している。 (外部評価) 散歩、買い物、車での遠出や外食、習字、川柳、行事への参加、芋掘り、草ひき、料理の下ごしらえ、おやつづくり、洗濯物たたみ等、一人ひとりの楽しみごとや役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 理解はしているが、買い物時以外は所持していない。家族から希望がある利用者は、家族から紛失した場合の了承をいただき所持している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の状況にも寄るが、出来る限りは外出が出来るようにしている。 (外部評価) 一人ひとりの希望で、近くの神社や公園へ散歩で出かけたり、道の駅やスーパーへ買い物に行ったり、外食をしたり、行事で遠出をしたり、おやつを玄関先や敷地内のベンチで食べる等、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 自動車などを使用した外出行事を行って対応している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が希望して、家族から了承を得ている場合には対応している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 規則的には面会時間を設けてあり、時間内であればいつでも面会可能としている。どうしても時間内に来れない家族は、時間外でも面会に来てもらっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアが良いということに関して理解している。が各居室から屋外への扉は、利用者の安全面への配慮から鍵をしている。玄関には、チャイムを設置している。 (外部評価) 運営者や職員は鍵をかけないケアの意義を理解しており、日中、玄関の鍵はかけていない。1階居室のガラス戸は、換気ができる程度の開閉が可能となっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) フロアーに必ず職員が居るようにしており、作業する場合でも利用者を見守りやすい位置で作業し利用者の居場所を把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 刃物類以外で可能な物は、自室に置くようにしている。誤飲の可能性のあるものは、目の届かない場所に保管するようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやり・はっとを活用して情報の共有化を行い、事故防止に取り組んではいるが、同じケースの事故が多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的な訓練は出来ていないが、職員に応急手当指導員と応急手当普及員がいるので進めていきたい。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の通報訓練と避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行っている。夜間を想定しての訓練を実施し、職員は避難経路や避難場所等の確認をし合っている。災害時に地域の協力が得られる体制は確立していない。	※	災害時には、職員のみでの誘導には限界があり、日頃から地域住民との協力体制を築いておくことが望まれる。運営推進会議や地域との交流を通して、地元住民や自主防災組織の協力が得られるよう話し合い、一緒に訓練を行う等の取組みを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒の危険性や誤嚥の危険性等、入居者の状況に応じた可能性を家族へ説明し話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝決まった時間のバイタル測定を行っている。利用者が普段と違った様子、本人からの不調の訴えがあった場合あるいはバイタル測定での異状があれば、速やかに看護師・管理者に報告・相談し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者のカルテに処方箋を付けているのと、処方箋のファイルがありいつでも確認できるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝のおやつに、牛乳系かヨーグルト系を毎日交互にだしている。散歩をしてもらったり、シャワートイレを利用したり薬等での対応もしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き・義歯洗浄を行うようにしている。各利用者の状況に応じた援助をして、口腔内の清潔保持をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) カロリー計算された献立の食材を配送で取り寄せ、職員と利用者として調理している。水分摂取量はチェックしていないが、職員が常に気をつけて利用者に水分を摂取してもらっている。 (外部評価) 食事の摂取量はその都度チェックし、一日の水分量も概ね把握している。業者から届く栄養バランスやカロリーを計算した献立表により食事を作っている。職員は、利用者が自力で食べられることを大切にしながら支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ホーム入り口に手指の消毒液を設置し、出入りする利用者・来訪者・職員は消毒するようにしている。日常でペーパータオルを使用し、手すり・ドアノブ等を毎日消毒して、全床の消毒を週1回実施している。感染症の情報があれば、早急にマニュアルの配布をしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器は、食器洗浄機を使って消毒して、布巾・おしぼりを毎回漂白剤にて殺菌している。食材は、専門の会社から配送で取り寄せている。食中毒防止のため調理後を2時間で廃棄している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前にめだかやひぶなを飼っている。玄関前と横の花壇には花を植えており、利用者と職員で食事やおやつにポーチを使ったりもしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間には季節感が味わえる飾り付けをしたり、壁画を作って展示をしている。 (外部評価) ホーム内はゆったりとした明るい空間で、くつろげる雰囲気がある。居間は広々としていて、行事にも対応できる広さがあり、畳の間を設け、壁には利用者の作品や行事の写真が飾られ、居心地よい場所となっている。浴室、トイレ等も清潔で気になる匂い等もない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間はかなり広いので、思い思いの場所で気の合う人と話しをしたりテレビを見たり、一人で居たりと自由に過ごしています。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の使い慣れた物を家族から持って来ていただいている。その後は、職員と利用者として飾り付けなどを行っている。 (外部評価) 各居室には洗面台があり、利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、仏壇、時計、ぬいぐるみ、ノート等が持ち込まれ、作品や写真を飾り、居心地よく過ごせる部屋となっている。利用者の希望や状態により、畳敷きになっている居室もある。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冷暖房及び床暖房を完備していて、利用者を良く観察し職員が小まめに調整を行っている。十分に換気をするように努めているが、臭いが気になる時もある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自立に向けた支援が出来る施設である。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者と職員とで、日常の生活・レクリエーション・行事を通して利用者が出来る生活動作を失わないように支援している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関前と横の花壇には、花や木を植えたりポーチで食事やおやつを食べたり裏の畑で野菜などを作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	休憩や空き時間などに、一緒にテレビを見たり話しをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	食事とおやつの時間は決まっている他は、一人ひとりのペースでくらしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員との日常での関わり合いのなかで、生き生きとした表情や言動が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	外出行事や買い物・散歩等を行っているが、急な外出希望など対応できない場合がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	毎日のバイタル測定と協力医療機関の医師による週1回の往診がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者の全て思い通りにはいかないが、全員に公平なサービスを行うことに重点を置いている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族から相談がある際には、良く話を聴いてきちんと相談に乗っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	高台にある為か、あまり来ない。地域の子供は、敷地内でよく遊んでいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	管理者の交代があり、これからである。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の皆頑張っているが、腰痛の訴えのある職員が多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から色々とお誉め言葉も頂き、利用者の表情も良く笑顔も多く見られているので、概満足していただいていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ほとんどの家族が、気になる点や要望等を気軽に言って来てくれるが、満足していない家族もいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

法人とホームの理念の基、利用者本位のサービス提供出来るよう取り組み、利用者・家族・地域・医療・介護の絆を大切に利用者の質の向上に努めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

安永 英和

評価完了日

平成 20 年 12 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔」を理念に、職員と入居者間だけでなく、散歩時や通勤時など地域の人に会ったら進んで笑顔で挨拶するようにしている。 (外部評価) 「笑顔」という理念は分かりやすく、親しみやすさがある。この理念は、利用者が地域で安心して暮らし続ける上で基本となるものであると捉え、共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を実践する為に、入居者が地域に溶け込み安全で安心かつ尊厳のある生活を送れるようにミーティング等で話し合ったり、職員間でも声かけもしている。 (外部評価) 居間の見やすい所に理念を掲げ、管理者と職員はミーティングで話し合う等、理念を共有し合っている。職員は、利用者との会話等、日々のケアの中での理念の実践を心がけている。職員同士も「笑顔」で接するよう努め、地域の方とも「笑顔」での挨拶を実践している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念の「笑顔」を各階ホールで目につくよう時計の横に掲示し、家族へは都度説明している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 施設が高台にあるため、入居者の家族以外の来訪者は少ないが、職員は挨拶を心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に入会し、地域のイベントに積極的に参加したり、お祭りに地元の御神輿や御供馬に来てもらい入居者にも楽しんでもらってます。また中学生の職場体験を受け入れ交流に努めている。 (外部評価) ホームは自治会に加入し、地域の文化祭に利用者の作品を出品し、福祉フェアに参加し、祭りには神輿や御供馬がやってくるなど、利用者は地域の方との交流を楽しんでいる。また、中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの夏祭りに地元の方を招く等、地域との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合いは行っているが、実際には地域の暮らしに役立つことはまだ出来ていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・外部評価で問題があった点等は職員間で討議して改善に努めている。 (外部評価) 運営者、管理者は評価の意義を理解したうえで、主に管理者が自己評価をまとめている。前回の評価後、ホームは地域との更なる交流に努め、運営推進会議を2か月に1回開催することとし、市の担当者と一緒に連携を図り、職員の研修への参加を推進する等の改善に取り組んでいる。	※	全職員が評価の意義を理解して自己評価に取り組むことで、日々のケアの振り返りとなり、サービスの質の向上にも繋がると思われるため、今後は全職員で評価に取り組んでいくことを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動や取り組み人事などの報告を行い、入居者・家族・地域・行政からの意見交換が出来る場となっている。意見や要望はミーティングなどで話し合いサービス向上に努めている。		
			(外部評価) 会議ではホームの活動状況、行事、課題への取り組み、外部評価等について報告し、話し合いがもたれている。会議で出された意見やアドバイス、地域の情報等をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市職員との他の部分での交流の機会はまだ設けていない。		
			(外部評価) 市担当者に運営、金銭管理、リハビリテーション等について相談したり、手続き関係で市の窓口を訪れる等、日常的に担当者で行き来する機会がある。また、こうした機会に介護・福祉関連の情報を得ている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて説明等を行っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等で、高齢者の虐待の話し合いをし知識を持って日常に虐待が発生していないか、管理者・職員互いに注意し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人と家族に施設見学をしていただき契約書及び重要事項説明書を説明し、家族側の要望・不安・疑問などの思いを十分に話し合い理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族・友人等との面会や電話での外部との接触の機会を設けて、職員とは日常会話の中で察するよう努力している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 健康状態に問題があれば、すぐに家族へ連絡している。定期的な報告はしていないが家族が来訪した際に状況の説明等を行っている。金銭は、利用料請求時に月の小遣いの収支表を同封し送付している。職員の異動等も利用料請求時にお知らせ文を同封し送付している。 (外部評価) 家族の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝えている。また、月に1回、利用者のホームでの過ごし方、行事の様子等について、写真を添えて報告している。家族からの預かり金は個別に管理し、毎月収支表と領収書のコピーを送付して報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に管理者や職員へ意見・苦情等があれば伝えていただいている。施設玄関に意見箱を設置しており、ホーム玄関にも意見箱の設置を予定している。 (外部評価) 来訪時や運営推進会議の際等に家族の意見や希望等を聞き、ホームの運営に反映させている。相談苦情窓口として、ホーム内の窓口は文書に明記し、家族に説明しているが、外部の機関は明記されていない。	※	サービスの質の確保・向上のためには、家族等の率直な意見や苦情を活かす姿勢や体制が必要である。より家族が意見や苦情等を表出しやすくなるよう、外部の相談苦情窓口を文書に明記し、家族に説明することを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ミーティングを行い、その場で提案出来る機会を設けている。提案のあった場合は検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ぎりぎりの職員人数でのシフトだが、昼間の時間帯に職員を多く確保して利用者の状況に応じて対応出来るようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 退職者が出た場合やユニット間のバランスを考え、不定期に必要な最小限での職員の異動をおこなっている。 (外部評価) 運営者は、職員の異動や離職を最小限に抑えるよう努力している。同系列の事業所合同での行事や職員の行き来が日常的であるため、法人間の職員異動時は利用者へのダメージも少ない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修など、希望者の勤務を調整して参加している。 (外部評価) 運営者は職員育成の大切さを認識して研修への参加を推進しているが、限られた職員体制の中での参加となるため、日帰りの研修参加が中心となっている。外部研修への参加者はミーティングで他の職員に研修内容を伝え、またミーティング時にミニ学習会を行うこともある。	※	サービスの質の向上のためにも職員の育成、学習は重要であり、職員の経験や資格等に応じた研修に順番に参加できるよう、職員の確保やシフトの工夫等に配慮していくことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 特には行っていない。管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っている。 (外部評価) 周辺の同業者同士の交流はあまり活発でなく、ネットワークづくりや相互訪問等の活動も行われていない。	※	サービスの質の向上や職員の育成のためには同業者との交流・連携は有効であり、近くのホームを訪ね合う等身近な工夫での交流から取り組みをはじめることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の話を聞き、職員と共に検討し悩みが軽減出来るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の仕事の状況や考え方を把握して、アドバイス等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) まずはホームへ来ていただき、本人からの話をよく聴いてから説明し不安を解消していただいてから実際にホームの見学(触れ合い)をしていただいている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の不安・悩み・要望をよく聴いた上で、本人の生活状況・問題点等をよく聴くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に利用している他の事業所・医療機関などとの連携をとり対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に本人・家族に見学に来ていただき、十分に相談した上で入居の受け入れをしている。また家族と相談しながら、利用者が入居前に併設施設のデイサービスやケアハウス利用し集団生活や施設に馴染んでから入居する場合もある。 (外部評価) 利用者や家族に前もってホームを見学してもらうなどして、雰囲気に慣れた上で入居できるよう、馴染みの関係づくりを重視している。また、敷地内にある同系列のデイサービスやケアハウスを利用して、集団生活を経験した上で入居してもらう等の工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 料理や農作業等の指導を受けたり、外出時に花や虫などの名前を教えてもらったり、行事の作業とか利用者の得意分野を職員が頼りにしている。 (外部評価) 職員は、利用者と共に散歩、外食、行事の準備、歌を唄う、おやつづくり、芋掘り等を楽しみながら行っている。また、利用者から料理の下ごしらえ、洗濯物の干し方やたたみ方、畑づくり等を教わっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、利用者の日々の様子やエピソードなどを報告し、今後利用者を支えていく上で必要な情報を共有し家族との関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 色々と複雑な関係の家族もあるが、利用者に対する理解を持ってもらいより良い関係が築いていけるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) この件に関しては家族対応をお願いしているが、ドライブなどで思い出の場所へ行ったり通った時などに思い出話をしたりしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は、職員が把握しておりトラブルの発生を未然に防ぎ対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意思を尊重しつつ本人の状況を考慮し、出来る限りの対応をおこなっている。 (外部評価) 利用者との会話、素振り、声かけへの反応、家族からの情報等から、一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 独居生活をしていた入居者も数人いるが、家族に確認しても分からないケースもあるが出来る限り把握できるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居後1ヶ月程度は、利用者自身の生活パターンや癖等を把握する時間に当てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ここでの生活が、安全と安心が保障された本人主体の生活になるよう家族と職員の意見を取り入れ、利用者に適した方法で介護できるよう介護計画を作成している。 (外部評価) 月1回のミーティングで、利用者や家族の思いを反映しながら、職員同士が話し合って介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回、介護計画の評価と見直しを行い、身体低下など必要に応じて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。 (外部評価) 毎月ミーティングで計画をチェックし、必要時には見直している。利用者や家族の状況に変化が生じた場合は、その都度新たな計画を作成している。なお、3か月に1回は計画の評価を行い、見直すことにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の状況を介護記録に記載し、情報を共有して話し合いを行い、介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 事業所内で対応出来ることに関しては、必要に応じて柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者の急な受診や外泊、冠婚葬祭、家族の居室での宿泊等、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特には行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話をすることはあるが、利用者が他のサービスを利用するには至っていない為、必要に応じて検討して行く。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとの関わりは無い。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回の医療機関による往診を行っている。基本的に病院に関しては、家族の希望に合わせている。家族が他の病院を希望する場合は、家族対応で行ってもらっている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は家族が付添うことにしているが、都合が悪い時は職員が付添っている。また、ホームの協力医療機関による週1回の往診も行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 精神科の医師と連携を図っており、必要に応じては家族に了承を得て通院を実施している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設施設内の看護師に日常的に相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、病院へ基本的な情報を提示し、入院先・家族・職員が早期退院、再入居が可能なよう連携している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 当施設では重度化した場合や終末期までのあり方についての対応は、指針を入居時に説明し同意を得ている。受け入れ先が見つかるまでは当施設で対応することになっている。 (外部評価) ホームの方針として重度化や終末期の支援は行っており、このことは早い時期から利用者や家族に説明している。重度化や終末期の段階になっても、適切な転居先が見つかるまではホームで対応することになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 検討中である。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 必要な状況に応じて情報交換を行いダメージを防ぐことに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員皆十分に注意を払っている。ミーティング時にも利用者に対する言葉かけ・言葉づかいや対応について話しあっている。 (外部評価) 食事時に偏った食べ方になっている場合には食器の位置を変えてさりげなく介助したり、食後の歯磨きを小声で促したり、排泄時などに恥ずかしい思いをしないよう耳元で尋ねる等、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮している。記録類は個人情報保護に留意し、事務室のロッカーで保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者の理解力に応じた説明をし、会話するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員数の関係で、全てが利用者の希望通りにはいかないが、出来る限り希望にそった日々の暮らしが出来るよう努めている。 (外部評価) 利用者の希望で、近くの神社へ行ったり、公園まで散歩したり、お目当ての買い物が出来るスーパーへ車で出かける等、一人ひとりの思いやペースを大切にした対応をしている。たばこを吸いたい利用者には、外で職員と共に喫煙してもらい、晩酌をしたい方には、できるだけ希望が叶うよう対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容に関しては、家族対応としている。利用者によっては出張の美容院を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者で出来ることに関しては、手伝ってもらったり職員と一緒にしている。 (外部評価) 自力でゆっくり食べる利用者をせかすことなく見守り、ご飯だけ食べる方には、おかずの皿を食べやすい位置にさりげなく移動する等の支援をしている。利用者と職員は一緒に料理の下ごしらえをしたり、食卓を拭いたり、後片付けを行っている。時には外部からお弁当をとるなどして、趣向を変えた食事を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲酒は、希望者がいません。飲み物やおやつは食事制限者だと難しいが、希望があれば一定の範囲ではあるが聞くようにしている。たばこは、ホームが禁煙の為禁止である。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 各利用者の排泄パターンを職員間で話し合っており、できるだけ把握して対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 職員数の関係で、利用者の希望通りにはいかない。入浴の曜日は決まっているが、順番についてはその都度配慮して決めている。利用者の体調不良によって入浴出来ない場合は、清拭などで対応している。 (外部評価) 入浴の曜日は決まっているが、入浴時間やその他の希望にも柔軟に対応できるよう努めている。利用者の体調等により入浴が難しい場合は清拭等で対応し、清潔保持に配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 各利用者で入眠時間が違うので、眠くなるまでフロア一等ですごしていただいている。休息は、職員が昼夜逆転にならないように配慮しながら休息してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 限りはありますが、したい事が出来るように支援している。 (外部評価) 散歩、買い物、車での遠出や外食、習字、川柳、行事への参加、芋掘り、草ひき、料理の下ごしらえ、おやつづくり、洗濯物たたみ等、一人ひとりの楽しみごとや役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 理解はしているが、買い物時以外は所持していない。家族から希望がある利用者は、家族から紛失した場合の了承をいただき所持している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の状況にも寄るが、出来る限りは外出が出来るようにしている。 (外部評価) 一人ひとりの希望で、近くの神社や公園へ散歩で出かけたり、道の駅やスーパーへ買い物に行ったり、外食をしたり、行事で遠出をしたり、おやつを玄関先や敷地内のベンチで食べる等、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 自動車などを使用した外出行事を行って対応している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が希望して、家族から了承を得ている場合には対応している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 規則的には面会時間を設けてあり、時間内であればいつでも面会可能としている。どうしても時間内に来れない家族は、時間外でも面会に来てもらっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないケアが良いということに関して理解している。が各居室から屋外への扉は、利用者の安全面への配慮から鍵をしている。玄関には、チャイムを設置している。 (外部評価) 運営者や職員は鍵をかけないケアの意義を理解しており、日中、玄関の鍵はかけていない。1階居室のガラス戸は、換気ができる程度の開閉が可能となっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) フロアーに必ず職員が居るようにしており、作業する場合でも利用者を見守りやすい位置で作業し利用者の居場所を把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 刃物類以外で可能な物は、自室に置くようにしている。誤飲の可能性のあるものは、目の届かない場所に保管するようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやり・はっとを活用して情報の共有化を行い、事故防止に取り組んではいるが、同じケースの事故が多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的な訓練は出来ていないが、職員に応急手当指導員と応急手当普及員がいるので進めていきたい。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の通報訓練と避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行っている。夜間を想定しての訓練を実施し、職員は避難経路や避難場所等の確認をし合っている。災害時に地域の協力が得られる体制は確立していない。	※	災害時には、職員のみでの誘導には限界があり、日頃から地域住民との協力体制を築いておくことが望まれる。運営推進会議や地域との交流を通して、地元住民や自主防災組織の協力が得られるよう話し合い、一緒に訓練を行う等の取り組みを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒の危険性や誤嚥の危険性等、入居者の状況に応じた可能性を家族へ説明し話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝決まった時間のバイタル測定を行っている。利用者が普段と違った様子、本人からの不調の訴えがあった場合あるいはバイタル測定での異状があれば、速やかに看護師・管理者に報告・相談し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者のカルテに処方箋を付けているのと、処方箋のファイルがありいつでも確認できるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝のおやつに、牛乳系かヨーグルト系を毎日交互にだしている。散歩をしてもらったり、シャワートイレを利用したり薬等での対応もしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き・義歯洗浄を行うようにしている。各利用者の状況に応じた援助をして、口腔内の清潔保持をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) カロリー計算された献立の食材を配送で取り寄せ、職員と利用者で調理している。水分摂取量はチェックしていないが、職員が常に気をつけて利用者に水分を摂取してもらっている。 (外部評価) 食事の摂取量はその都度チェックし、一日の水分量も概ね把握している。業者から届く栄養バランスやカロリーを計算した献立表により食事を作っている。職員は、利用者が自力で食べられることを大切にしながら支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ホーム入り口に手指の消毒液を設置し、出入りする利用者・来訪者・職員は消毒するようにしている。日常でペーパータオルを使用し、手すり・ドアノブ等を毎日消毒して、全床の消毒を週1回実施している。感染症の情報があれば、早急にマニュアルの配布をしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器は、食器洗浄機を使って消毒して、布巾・おしぼりを毎回漂白剤にて殺菌している。食材は、専門の会社から配送で取り寄せている。食中毒防止のため調理後を2時間で廃棄している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前にめだかやひぶなを飼っている。玄関前と横の花壇には花を植えており、利用者と職員で食事やおやつにポーチを使ったりもしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間には季節感が味わえる飾り付けをしたり、壁面を作って展示をしている。 (外部評価) ホーム内はゆったりとした明るい空間で、くつろげる雰囲気がある。居間は広々としていて、行事にも対応できる広さがあり、畳の間を設け、壁には利用者の作品や行事の写真が飾られ、居心地よい場所となっている。浴室、トイレ等も清潔で気になる匂い等もない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間はかなり広いので、思い思いの場所で気の合う人と話しをしたりテレビを見たり、一人で居たりと自由に過ごしています。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の使い慣れた物を家族から持って来ていただいている。その後は、職員と利用者で飾り付けなどを行っている。 (外部評価) 各居室には洗面台があり、利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、仏壇、時計、ぬいぐるみ、ノート等が持ち込まれ、作品や写真を飾り、居心地よく過ごせる部屋となっている。利用者の希望や状態により、畳敷きになっている居室もある。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冷暖房及び床暖房を完備していて、利用者を良く観察し職員が小まめに調整を行っている。十分に換気をするように努めているが、臭いが気になる時もある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自立に向けた支援が出来る施設である。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者と職員とで、日常の生活・レクリエーション・行事を通して利用者が出来る生活動作を失わないように支援している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関前と横の花壇には、花や木を植えたりポーチで食事やおやつを食べたり裏の畑で野菜などを作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	休憩や空き時間などに、一緒にテレビを見たり話しをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	食事とおやつの時間は決まっている他は、一人ひとりのペースでくらしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員との日常での関わり合いのなかで、生き生きとした表情や言動が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	外出行事や買い物・散歩等を行っているが、急な外出希望など対応できない場合がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	毎日のバイタル測定と協力医療機関の医師による週1回の往診がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者の全て思い通りにはいかないが、全員に公平なサービスを行うことに重点を置いている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族から相談がある際には、良く話しを聴いてきちんと相談に乗っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	高台にある為か、あまり来ない。地域の子供は、敷地内でよく遊んでいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	管理者の交代があり、これからである。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の皆頑張っているが、腰痛の訴えのある職員が多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から色々とお誉め言葉も頂き、利用者の表情も良く笑顔も多く見られているので、概満足していただいていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ほとんどの家族が、気になる点や要望等を気軽に言って来てくれるが、満足していない家族もいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

法人とホームの理念の基、利用者本位のサービス提供出来るよう取り組み、利用者・家族・地域・医療・介護の絆を大切に利用者の質の向上に努めている。